

## 産業観光の拠点としての織姫神社の整備について（改訂継続）

桐生市市民文化会館の前庭にある織姫神社は、桐生の近代産業の礎を築いた日本織物株式会社の足跡を示す数少ない場所であり、60年以上管理を行ってきた地元三区の手を離れ、平成31年3月から桐生市の管理となっています。

明治28年（1895年）に建設された「一間社流造」の神社は、魂の抜かれた神格のない形で残されており、周囲には佐羽喜六の顕彰碑や「富士紡績株式会社桐生工場の跡」の碑など、このあたり一帯にノコギリ屋根工場を連ねていた日本織物株式会社を偲ぶ遺構が配置されております。

しかし、その貴重な歴史は広く市民らに知られているとは言い難く、日本織物株式会社の日本における先覚的な役割、経営の中心にいた佐羽喜六の人物像などは長く語り継ぐべきものであります。

つきましては、織姫神社周辺を桐生の産業観光の原点となるような記念公園的な整備をしていただくことを、強く要望いたします。

加えて、織姫神社周辺には、令和6年12月に新庁舎完成が予定されている市役所をはじめ、文化会館、地場産センター、商工会議所会館、新川公園、陸上競技場など、公共施設が集積するシビックゾーンとなっておりますので、これらの場所に来た方々が織姫神社を訪れていただけるような案内看板の設置等の周知方法や、ルート作りを併せて要望いたします。

### 桐生市からの回答

旧織姫神社周辺につきましては、日本織物株式会社の足跡を示す貴重な場所であることは市といたしましても認識しております。

整備につきましては、新庁舎建設に伴う周辺整備に併せ、歴史を偲び、多くの人を訪れる憩いの場所となるよう引き続き関係機関等と調整を図りながら案内看板設置等も含めて検討してまいりたいと考えております。

[回答担当] 市民生活部スポーツ・文化振興課文化振興担当